

# 令和 2 年度 学校経営計画

富山県立富山高等支援学校

## 1 学校教育目標

社会的・職業的自立を目指し、自他を尊重し協調しながら、自己実現と社会に貢献できる心身ともに健康な生徒を育成する。

＜校訓＞ 自立 挑戦 協調

## 2 学校の特色

- ・ 本校は、軽度知的障害のある生徒を教育の対象とし、卒業後の一般企業等への就労など、社会的・職業的自立に向けた支援を重視する、高等部のみを置く特別支援学校である。
- ・ 学校の規模は、1 学年当たり、3 学級 24 名を定員とし、就労に必要な知識・技能・態度等の基礎を習得するための実習を行う生産・サービス科を設置している。

## 3 学校の現状と課題

- 昨年度、五期生 22 名が卒業し、これまでに 89 名の卒業生を社会に送り出した。これまで就職を希望した卒業生全員が、希望する進路先への就職を実現している。本年度は、中学校特別支援学級に在籍する受検生が少なかったことから、入学者定員 24 名のところ 9 名の 1 年生が入学した。本年度は、「入学者定員を満たすこと」、「全員就職を目指すこと」、「継続的な就労生活ができる力を高めること」、「自己理解を深め自己管理意識を高めること」を本校の使命として取り組むとともに、授業や実習をととして生徒一人一人の自己理解の力を高め、地域貢献できる人材を育成し、地域から信頼される学校として充実・発展させることが課題である。

### （1）就労できる力を育てる。

- ・ 職業教育に重点を置いた教育活動の推進と一人一人の特性に応じた就労支援の充実。
- ・ 実習（作業学習）や就業体験の系統的な実施及び地域人材や事業所等と連携した専門的な指導の推進、充実。
- ・ 就労に向けた積極的な職場開拓及び職場適応・定着のための支援の充実。

### （2）生活の質を高める力を育てる。

- ・ 継続した就労生活を送れるように自ら生活を律し規則正しい生活を送る生活習慣を身に付けるための支援の充実。
- ・ 青年期にふさわしい情操を培い、自己理解を深める支援を充実させるとともに、良好な人間関係を育て、主体的に心豊かな生活ができるような指導の充実。
- ・ 体力の向上及び自らの健康管理や健康的な生活を送ることができるような指導の充実。

### （3）地域社会に貢献する。

- ・ 地域資源や人材の積極的活用、地域での実習（作業学習）やボランティア活動などを通しての理解啓発及び社会貢献。
- ・ 県東部の特別支援学校や高等学校における障害のある生徒の就労に関する支援の推進。

### （4）安全・安心な教育環境を整備する。

- ・ 安全教育の計画的・組織的な実施と事故防止対策の拡充。
- ・ 危機管理や防災意識を高めるための校内体制づくり。

#### 4 学校教育計画

| 項 目 |           | 目 標 ・ 方針及び計画 |                                                                                                                                                                                |
|-----|-----------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 学習活動      | 目 標          | ・卒業後の就労生活を見据え、必要な力の整理と習得を目指すための自己理解を深める支援の充実を図る。                                                                                                                               |
|     | 重点 1<br>② | 計 画          | ・就職及び就労継続に必要な力を整理し、「到達度チェック表」を作成しそれを元に懇談を行うなどすることで自己理解を深め、目標達成のために必要な力の現在の習得度について理解できるようにする。                                                                                   |
|     |           | 目 標          | ・教員全体で生徒への支援の方法や工夫を知る場を設定することで、より効果的な指導につなげる。                                                                                                                                  |
|     |           | 計 画          | ・期間を設定し、作業学習を互見することで、教員全体で生徒の現状と目標を把握し、支援方法を共有することができるようにする。                                                                                                                   |
| 2   | 学校生活      | 目 標          | ・将来の自立した生活のために生活習慣を考える機会を設定し、健康な生活習慣の意識と態度を育てるとともに、基本的生活習慣の確立を図る。                                                                                                              |
|     | 重点 2<br>⑧ | 計 画          | ・生徒が自分の生活を振り返り、自ら改善点を見付けることができるよう健康チェックを実施する。基本的な内容から実施し、家庭とも連携を図ることで継続的に生活の改善を意識できるようにする。<br>・健康チェックを行う強化週間を設けることで、健康な生活を送ろうとする意識を高め、基本的生活習慣の確立、自己管理意識の向上につなげる。               |
|     |           | 目 標          | ・放水等実際に想定した火災訓練等を実施し、防災教育の充実を図る。                                                                                                                                               |
|     |           | 計 画          | ・実際の火災を想定し、消火栓からの放水等の対応についてシミュレーションし、教職員間で共通理解を図る。<br>・火災、地震発生時の状況や安全な避難方法について指導を行い、落ち着いて迅速に避難できるよう指導の充実を図る。                                                                   |
|     |           | 目 標          | ・就労生活を見据え健全な社会人としての規範意識を高め、自立した生活を送るとともに、地域貢献できる生徒育成のための指導の充実を図る。                                                                                                              |
|     |           | 計 画          | ・健全な自立生活を送り地域に貢献できるよう、機会を捉えて社会常識やモラル、ルールやマナー等の指導を行う。<br>・生徒一人一人が安全・安心な生活を送ることができるよう、いつでも相談できる支援体制を整え、関係機関や関係団体等と連携を密にする。<br>・生徒一人一人の課題に対応するため、定期的及び随時の個別面談を行い生徒の悩み等の把握を日頃から行う。 |
|     |           | 目 標          | ・学校生活や家庭生活における支援体制を整え、ニーズに合わせた支援の充実を図る。                                                                                                                                        |
|     |           | 計 画          | ・行動観察や面接等による生徒の情報を教員間で共有し、必要に応じてサポート会議等を開き、支援体制を整備する。<br>・適時に質の高い支援が行えるよう、家庭との連携を密にし、地域、関係機関との連携・協力の充実を図る。                                                                     |

|   |                                       |            |                                                                                                                                                                                                           |
|---|---------------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | 進路支援                                  | 目 標        | ・生徒、保護者の就労に向けての意識を高めるため、雇用状況等の情報や生徒・保護者の企業見学等の感想など、情報提供の場の設定や、情報の発信を行い、就労への意識啓発を図る。                                                                                                                       |
|   |                                       | 計 画        | ・学校の進路指導の取組状況や生徒・保護者の意見・感想等を知らせる。<br>・障害者雇用率や最低賃金など障害者雇用の現状や社会の流れ等の情報を生徒・保護者に提供する。                                                                                                                        |
|   |                                       | 目 標        | ・教員向けの進路研修会を実施し、進路指導の理解を深め、教員の生徒・保護者への就労意識を高めるための進路指導の充実を図る。                                                                                                                                              |
|   |                                       | 計 画        | ・教員向けの進路研修会を実施し、進路指導の理解を深め、生徒・保護者の就労意識を高める進路指導が行えるよう研修を行う。                                                                                                                                                |
| 4 | 特別活動                                  | 目 標        | ・地域交流を推進し、地域に貢献できる生徒の育成及び理解啓発を図る。                                                                                                                                                                         |
|   |                                       | 計 画        | ・地域行事への参加や地域の方々とのふれあい、地域のボランティア活動等を積極的に推し進める。<br>・学校行事等の情報を積極的に発信し、地域に開かれた学校としての推進を図る。                                                                                                                    |
|   |                                       | 目 標        | ・ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事への協力を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主・実践的な態度を養う。                                                                                                                                   |
|   |                                       | 計 画        | ・3学年縦割りの班編制を行い、学年を超えて協働する行事（体育大会、文化祭、委員会活動など）の計画や運営を主体的に行える環境作りに努め、達成感を味わわせる。                                                                                                                             |
| 5 | その他<br>(情 報)<br><div>重点 3<br/>⑨</div> | 目 標        | ・ <u>個々の生徒の社会自立に向けてＩＣＴ機器を効果的に活用するための指導ができるように、校内のＩＣＴ環境の整備を行うとともに、教員向けの研修会を定期的を開催したり、互見授業を行ったりすることで、教員のＩＣＴ活用指導力の向上を図る。</u>                                                                                 |
|   |                                       | 計 画        | ・ <u>生徒の理解を促進するためにタブレット端末を授業で使用しやすいよう教室等のＩＣＴ機器を整備する。</u><br>・ <u>教員向けにＩＣＴ機器の活用方法を身に付けるための体験研修を開催し、スキルの向上を図る。</u><br>・ <u>授業に効果的に活用できるように、最新のアプリ等の情報や情報モラルに関する事例等を知ることができるように、研修会やグループウェアを利用して情報提供を行う。</u> |
|   |                                       | (教育相談) 目 標 | ・入学者確保に向けた中学校等の生徒や保護者、教員への理解啓発及び教育相談の充実を図る。                                                                                                                                                               |
|   |                                       | 計 画        | ・県東部の中学校を個別訪問し、本校について説明するとともに、オープンスクール等の内容を対象者のニーズに合うように工夫し、本校への理解を得られるようにする。また、中学校訪問時に学校の状況に応じた説明を行い、適切な進路選択の一助となるよう努める。<br>・学校案内パンフレットや学校紹介リーフレットを更新し、中学校等訪問の際、広く配付することで、学校の理解啓発を継続的に推し進める。             |

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

| 令和2年度 富山高等支援学校アクションプラン —1— |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |              |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 重点項目                       | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |              |
| 重点課題                       | 卒業後の就労生活を見据え、必要な力の整理と習得を目指すための支援の充実                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |              |
| 現 状                        | <p>一昨年度から、作業学習で「到達度チェック表」の記入と個別面談を行うことで、卒業後の就労生活につながる目標が設定できるようになってきた。しかし、就労を継続していく際に必要な体調・時間・感情等を自己管理する力の向上も大きな課題として挙げられた。そこで、今年度は学校生活全般で支援を行うための情報共有や支援の連携を強化して、生徒一人一人がなりたいた自分や就きたい職業について考え、具体的な目標を設定し、課題解決に向け自ら取り組んでいけるように支援を充実させたい。</p> <p>また、作業学習の互見授業は、「到達度チェック表」の利用方法や振り返りの状況を各班で参考とするよい機会だったが、全ての教員が見学できなかったことなどが反省として上がっており、より多くの教員が参加できるよう改善する必要がある。</p> |              |
| 達成目標                       | ①「到達度チェック表」による個別面談                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | ②各作業班の互見授業   |
|                            | 4回（担任2回、作業担当者2回）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 各1回・教員参加7割以上 |
| 方 策                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック項目を見直し、学校生活全般に適用できるものに改良した「到達度チェック表」を用いた支援を行い、目標設定や達成度評価を行う面談と、目標達成のための取組についての面談を実施する。</li> <li>・他の作業班を参観できる互見授業を作業班毎に1回設定し、教員の7割以上が参加できるよう日程調整をする。参加教員が参観で得たことを自分の班に持ち帰り、作業担当教員間で共有し、さらに有効な作業学習運営の工夫ができるようにする。</li> </ul>                                                                                             |              |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

| 令和2年度 富山高等支援学校アクションプラン —2— |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                      |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 重点項目                       | 学校生活                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                      |
| 重点課題                       | 自立に向けた基本的生活習慣の確立 -自己管理の向上と家庭との連携を目指して-                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                      |
| 現 状                        | <p>安定して働くためには、規則正しい生活習慣を身に付け健康な生活を送ることが重要であり、就業体験を重ねて体調管理の大切さを実感する生徒も多い。</p> <p>卒業後の社会的・職業的に自立した生活のために、在学中に生活リズムを自己管理できる力を身に付けることが必要である。併せて、心身ともに健康な生活を送るためには家庭の理解と協力が不可欠であり、家庭との連携をより密にすることも必要であると考えます。</p> <p>そこで、今年度も継続して、生徒が自分の生活習慣を考える機会を設定し、より健康な生活を送ろうとする意識と態度を育てたい。併せて、確実な定着のために、保護者との連携を強化し、協力して取り組んでいきたい。</p>                                                                                                   |                                      |
| 達成目標                       | ①保健強化週間で、月毎のめあてを達成できた生徒の割合（概ね達成も含む）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | ②保健強化週間の結果や健康チェックシートの集計結果を保護者に配付する回数 |
|                            | 75%以上が7回以上（全9回中）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 10回以上                                |
| 方 策                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健の月目標や、昨年度の取り組みの結果から明らかになった健康課題等を基にして、身に付けてほしい生活習慣の改善に取り組む保健強化週間を各月に設ける。</li> <li>・保健指導シートを使い、朝または帰りのS Tの時間にチェックを行う。1週間実施し、反省・感想を記入後、家庭に持ち帰り保護者にコメントを記入してもらう。</li> <li>・保健体育委員会と連携し、強化週間の呼び掛け等を行う。</li> <li>・健康チェックシートを作成し、生徒が自分の生活を振り返り、自ら改善点を見付けることができるよう、年度の前半と後半に健康チェックを実施し、集計をとる。</li> <li>・集計結果を基に、生徒自身の健康課題や生活の改善点を考える。取組内容や集計結果を保健だよりで家庭に連絡し、家族で話し合う機会としてもらう。</li> </ul> |                                      |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和2年度 富山高等支援学校アクションプラン — 3 —

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                            |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 重点項目 | 学習活動 その他（情報）                                                                                                                                                                                                                                                                             |                            |
| 重点課題 | I C T機器を活用した授業づくりに向けての指導力の向上                                                                                                                                                                                                                                                             |                            |
| 現 状  | <p>I C T教育推進事業により、i Pad やAppleTV等の機器が配備されたことにより普通教室等でI C T機器を用いた授業を行うことが容易になった。</p> <p>教員のI C T機器の知識・技能には個人差があるとともに、I C T機器の効果的な利用方法についての情報が不足しているため、一人一人の教員がI C T機器をより効果的に活用して授業を行うためには、知識や技能の向上が必要な状況である。</p> <p>導入された情報機器やソフトウェアに関して、情報モラルを含めた最新の情報を共有する必要がある。</p>                    |                            |
| 達成目標 | ① I C T機器活用研修会の実施                                                                                                                                                                                                                                                                        | ② I C T活用指導力の評価が高くなった教員の割合 |
|      | 10回以上                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 40%以上                      |
| 方 策  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C T機器活用に関する必要な知識・技能が高められるように、校内研修会を月1回程度行ったり、外部講師を招いて研修会を行ったりすることで知識・技能の向上を目指す。</li> <li>・ I C T機器の操作の習熟や最新の情報が周知できるように、授業で活用可能なアプリケーションの紹介や情報モラルに関する事例等を校内研修会やグループウェアで紹介する。</li> <li>・ 授業でより効果的にI C T機器を活用できるよう公開授業を行い、活用方法を共有する。</li> </ul> |                            |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）